

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	総務部 広報・にぎわい振興 担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	名古屋港のPR		継続	維持	縮小	連絡先	052-654-7947
	対象(誰・何を)	県民市民、一般来港者、港湾関係者		連携課	行政管理課		
目的	意図(どういった状態にしたいか)	名古屋港の取組、施策、状況、特徴や変化について広く関心や理解を得られる状態にします。				事業期間	昭和26年度～
概要	練習帆船・汽船等の誘致・一般公開を実施するとともに、「海の日名古屋みなと祭」開催に協力します。また、印刷物・広報番組・広報紙の作成・製作、港務艇による港内見学「みなと体験ツアー」の開催、ホームページの運営及びSNSを活用し、PRを実施します。					根拠法令等	
令和2年度の実施予定	帆船「海王丸」、汽船「青雲丸」「大成丸」「銀河丸」の誘致・一般公開の実施、「海の日名古屋みなと祭」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」を作成します。広報番組「What's 名古屋港」・広報紙「広報なごや港」・新聞広告の製作、「みなと体験ツアー」の開催、ホームページの運営及びSNSを活用したPRを実施します。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(14回)の製作、ホームページ及びSNS(Facebook、Instagram)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなと体験ツアー」(4回)・PRイベントの実施や民間協力による花火イベントの調整協力を行いました。 帆船・汽船の誘致・一般公開及び「海の日名古屋みなと祭」開催への協力は、新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の影響により実施できませんでした。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	66,568	63,292	31,606	53,822	令和2年度は、帆船・汽船の誘致による寄港がなかったこと及び「海の日名古屋みなと祭」が開催中止となったことから、令和2年度の減少はその事業に係る費用が主な要因です。
人件費	千円	82,971	82,566	82,449	82,662	
合計	千円	149,539	145,858	114,055	136,484	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数(件) (単年度管理型)	目標	8,000	17,000	23,000	26,000		名古屋港の関心を測る指標として本組合公式Facebookに加え、令和2年度からは公式Instagramページの投稿記事へのいいね等のリアクション数も設定しました。目標値は過去実績を踏まえ着実な向上を目指して設定しました。	通信環境、情報提供媒体の変化
	実績	17,060	22,900	21,881				
事業進捗状況(2年度)				<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標値を大幅に下回る				
船舶一般公開見学者数(人) (単年度管理型)	目標	7,700	7,700	7,700	7,700		目標値は、平成29年度の110周年を除いた過去5年間(平成24～28年度)の合計値(38,390人)の平均 38,390人÷5年間≒7,700人/年間	季節、天候、感染症、寄港隻数及び実施内容
	実績	7,755	17,509	-				
事業進捗状況(2年度)				<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標値を大幅に下回る				
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数は、情報発信の強化を推し進めるため、従来から実施しているFacebook広告や名古屋港水族館との連携に加え、新たに投稿スケジュールを作成し効果的な発信に努めるとともに、フォロワー数の増加を目的として令和2年度に初めてInstagramフォトコンテストを実施しました。これにより、コロナ禍で軒並みイベントが中止となった中、目標値に近い実績となりました。 船舶一般公開見学者数は、感染症の影響により一般公開は実施できませんでした。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあってるか？	○ 名古屋港のPRは港湾管理者である本組合が主体的に取り組むべき事業と考えます。加えて、民間事業者等の意見を取り入れながら港の認知度向上に資するように努めていく必要があります。						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？ 期待通りの成果が得られているか？	○ 名古屋港への理解を深め、関心を高めることは施策目標の達成には必須の条件と考えます。 Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数について、令和2年度は軒並み各種イベントが中止となった中、目標値に近い実績となり、さらにInstagramのフォロワーは約2倍に増加するなど、媒体を活用したイベントの実施や投稿の工夫により一定の成果が得られたと考えます。						
効率性	最小のコストとなっているか？	○ 既存のイベントを最大限に有効活用しながら事業の実施が図られたと考えます。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	縮小	令和3年度の「海の日名古屋みなと祭」は開催中止となりコストを「縮小」としましたが、名古屋港への関心を高め、理解が深まるよう、引き続き取り組む必要があるため。なお、成果については、引き続き目標達成を目指すことから「維持」とします。
	資源(財・人)の投入を減らしながら、取組を継続し、成果を維持する必要がある。		
課題			3年度以降の取組
利用者にとって、わかりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要です。また、感染症の状況を踏まえ、イベント開催の可否を判断するとともに、イベント開催時における感染症の感染防止対策の実施が必要です。			情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていきます。また、感染症の状況に応じ感染防止対策を適切に実施し、にぎわい創出に取り組んでいきます。 なお、成果については、感染症対策をしつつ実績値の向上を目指していきます。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 水族館事業担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト				
事務事業名	名古屋港水族館の振興		継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7816	
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業期間	平成18年度～	
	意図(どういう状態にしたいか)	海洋文化の普及に努めます。						
概要	水族に関する知識を広め、水族への親しみを深めることにより、県民・市民の自然環境に対する意識の高揚を図るとともに、健全な余暇の活用に資する名古屋港水族館の振興を図ります。						根拠法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例、名古屋港水族館条例
令和2年度の実施予定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の影響を考慮し、水族の飼育・繁殖・展示を行い、施設を良好に管理していきます。						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	感染症拡大防止対策として4/1～5/24まで臨時休館し、再開後は、来館者の検温実施、館内に消毒用アルコールを設置等するとともに、密集対策として、混雑状況をリアルタイムで把握し対応できるよう、新たにカメラを設置しました。また、夏休み期間中(7/13～8/31)は、密集対策及び熱中症対策として、事前予約制を導入しました。臨時休館等影響を受け、利用料金収入が減少し、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出しました。水処理施設や電気設備の補修など、優先順位を定め維持補修を行いました。営業再開後は段階的にイベントを再開するとともに、時間外利用事業や、クラウドファンディングなどの取組を実施しました。						
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)	
事業費	千円	745,645	898,448	1,130,401	924,831	令和2年度は、感染症の影響により管理運営に必要な料金収入が不足し、管理運営経費の不足額を本組合が負担したため、事業費が増加しております。	
人件費	千円	31,345	39,448	39,392	36,728		
合計	千円	776,990	937,896	1,169,793	961,560		

3 CHECK(検証)

成果目標名	30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
入館者数(万人)	目標	221	220	220	230		天候、景気、感染症
	実績	211	200	92			
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
来館者の満足度(%)	目標		80	80	85	来館者へのアンケート実施結果	
	実績		98	—			
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	感染症拡大防止対策により、5月24日までの臨時休館をはじめ第2波、3波の影響があり、目標は達成することはできませんでした。また、感染症拡大防止対策に伴い、来館者へのアンケートは実施できなかったため、来館者の満足度は算出できませんでした。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 親しまれる港づくりを推進するため、本組合が関与する必要があると考えております。また、広く一般の利用を対象として海洋文化の普及に努めており、利用者ニーズや社会環境に適合しています。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 入館者数は、目標値を大きく下回りましたが、コロナ禍においても魅力ある港湾空間の形成と海洋文化の普及に貢献しています。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 施設の維持修繕等は優先順位を定め、最少のコストで最大の効果が得られるよう努めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性	成果	コスト	判断理由
		拡大	拡大	
継続				海洋文化の普及については継続して実施する必要があります。web等の活用により海洋文化の普及に努めるとともに、イベントの開催、積極的なPR活動に取り組み、大幅に減少した入館者数を回復するためには「拡大」とします。コストは、経費削減を行います感染症の影響により利用料金収入が減少する見込みであり、令和2年度に引き続き、指定管理料の支出が必要であるため「拡大」とします。なお、令和3年度の指定管理料支出額は2年度に比べ減少が予想されます。
課題				3年度以降の取組
来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要があります。コロナ禍においての入館者数の回復策や入館料以外の収入の確保に向けて財団と連携して検討していくとともに、経費削減に取り組んでいく必要があります。また、感染症の影響により来館することができない人に対しても、海洋文化の普及や水族館のPRを実施していく必要があります。施設の老朽化に伴い年々維持管理費が増加しているため、財政負担の縮減及び平準化を図る方策を検討する必要があります。				感染症の拡大防止対策を引き続き実施します。入館者数増加、収入増加及び経費削減の方策を図るとともに、引き続き、web等を活用し海洋文化の普及を図っていきます。感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出します。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者 建設部 金城・中川・南5区担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト		
事務事業名	金城ふ頭における円滑な交流拠点開発の推進		継続	維持	維持	連絡先 052-654-7978 連携課 管財課、港湾管理事務所
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭				事業期間 平成29年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	物流機能との共存を図りながら、円滑な交流拠点開発を推進します。				
概要	名古屋市モノづくり文化交流拠点構想の具体化を図るため、レゴランド・ジャパンを核とした複合開発に協力しており、今後もレゴランド・ジャパンの拡張等が予定されていることから、物流機能との共存を図りながら、円滑な交流拠点開発を推進します。					根拠法令等
令和2年度の実施予定	物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市と連携し、国際展示場関連の工事や大規模イベント時の交通対策について、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行います。					実施義務 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
						関連シート

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	国際展示場新第1展示館及びコンベンション施設整備の工事について、港湾関係者へ工事の概要説明や月間工程を送付するとともに、大規模イベント時における交通対策等について、名古屋市と連携し、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	13,829	11,926	11,926	12,560	
合計	千円	13,829	11,926	11,926	12,560	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
港湾関係者等の意見に対応した割合(%) (単年度管理型)	目標		100	100		100	交流拠点開発に伴う港湾関係者等からの意見・苦情等に対応した割合 対応した件数/意見・苦情等の件数×100 (意見・苦情等が0件の場合は100%とする)	
	実績	100	100	100				
	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	港湾関係者等からの意見や苦情に対して、関係部署や名古屋市等と調整し対応しました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあってるか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	継続	維持	維持	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、引き続き、物流との共存を図りながら交流拠点開発を推進し、うるおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。
課題				
交流拠点開発は、物流機能への影響がないよう進めていく必要があります。				3年度以降の取組
物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市や関係部署と連携し、国際展示場関連の工事や大規模イベント時の交通対策について、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行っていきます。				

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			元年度事業・施策評価結果		責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	うらおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト		
事務事業名	魅力ある港湾景観の形成			維持	維持	維持	連絡先 052-654-7892 連携課 港営課・管財課
目的	対象(誰・何を)	名古屋港内の景観			事業 期間	平成5年度～継続	
	意図(どうい う状態にしたいか)	ロマンと活気にあふれた港づくりをめざして、魅力ある良好ものにしてきます。					
概要	臨港地区内の建築物等の景観について、名古屋港景観基本計画及びカラー計画マニュアルと整合が図られるよう事業者と調整します。また、名古屋港の歴史を物語る景観資源(歴史資源)の適正な管理に努めます。					根拠 法令等	
令和2年度の実施予定	臨港地区内行為届出等の際に、カラー計画マニュアルや景観アドバイザー制度を紹介し、建築物の配色等について、計画に整合するよう協力を要請します。また、歴史資源の維持管理マニュアルを作成します。名港トリトンのライトアップの今後のあり方を検討するとともに、既存設備の維持補修を行います。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	名古屋港カラー計画について13件の審査を行い、景観アドバイザー制度について1件の相談を受けました。また歴史資源4施設の維持管理マニュアルを作成しました。名港トリトンのライトアップの今後のあり方を検討するとともに、既存ライトアップ設備の維持補修を行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	70	28	6,528	2,209	景観アドバイザーへの相談件数の減少(元年度:2件、2年度:1件)に伴い、事業費も減少しましたが、歴史資源の維持管理マニュアルの作成により人件費は減少しませんでした。また、2年度から名港トリトンライトアップの項目を「低炭素化の取組の推進」から移動したため、増加しました。
人件費	千円	2,766	3,670	7,339	4,592	
合計	千円	2,836	3,698	13,867	6,800	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
カラー計画マニュアルとの整合率(%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	目標値を上回る 目標値をやや下回る	100	臨港地区内行為の届出等において、建築物等がカラー計画マニュアルと整合するように調整できた件数の割合を指標とします。(企業色や整合する既製品がない場合は対象外とします。)	配色に関する事業者の意向
	実績	88	100	54				
歴史資源5施設の維持管理マニュアル作成率(%) (進行管理型)	目標		40	60	順調	100	歴史資源5施設のうち維持管理マニュアルを作成した施設の数の割合(%)を指標とします。	
	実績	20	20	80				やや遅れ・遅れ
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	カラー計画マニュアルの整合率は、協力を得られなかった事業者もあった(13件中6件)ため、目標値を下回りました。歴史資源4施設の維持管理マニュアルを作成し目標を上回りました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 港内の良好な景観形成を計画的に進捗するために必要です。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 「うらおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献しております。景観審査におけるカラー計画との整合率は下回りましたが、カラー計画への整合について周知・要請により、協力する事業者がいることから、成果は得られています。歴史資源の維持管理マニュアルについては当初目標より早く作成が進んでおり、歴史資源の適切な維持管理が図られています。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 事業者からの相談に応じて、アドバイザーに相談しています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	引き続き、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要があるため。なお、成果については、事業者による協力によることから「維持」とします。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			3年度以降の取組
引き続き新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者の説明していく必要があります。また、カラー計画マニュアルや景観基本計画については、事業者の協力が得られるよう、成果や課題を分析するなど、計画内容の検証をする必要があります。国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理方法について、関係機関と調整を図りつつ検討する必要があります。また、名港トリトンライトアップの今後のあり方について、関係者と検討していく必要があります。			事業者が新築・改築の手続きを行う際、カラー計画を認識する機会を増やすよう、検討・調整を進めていきます。カラー計画マニュアルや景観基本計画について、計画内容の検証を行います。また、国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理マニュアルの作成を進めていきます。また、名港トリトンライトアップのあり方について引き続き関係者で検討を重ねます。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	名古屋港ポートビルの管理・運営		継続	維持	維持	連絡先	052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業期間	平成18年度～
	意図(どういう状態にしたいか)	海事に関する知識の普及により、海事思想の高揚を図ります。					
概要	名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供します。					根拠法令等	指定管理者による公の施設の管理に関する条例 名古屋港ポートビル条例
令和2年度の実施予定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の影響を考慮し、海事に関する企画・展示を行い、施設を良好に管理しながら、一層親しまれ魅力ある施設となるよう努めていきます。また、webを活用して名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力を広く発信していきます。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	感染症拡大防止対策として4/1～5/24まで臨時休館し、再開後は、消毒用アルコールを設置する等、感染症拡大防止策を実施しました。臨時休館等影響を受け、利用料金収入が減少し、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出しました。海洋博物館においては企画展「名古屋海洋博物館のお宝展」、「ボトルシップ展」、「ペーパークラフト教室」を開催する等、海事に関する企画・展示を行い、施設を良好に管理しました。また、facebookを活用して、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力を広く発信するとともに、youtubeで海洋博物館の紹介動画等を見ることができるようになりました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	61,240	148,110	108,198	105,849	令和2年度は、感染症の影響による指定管理者の管理運営経費の不足額を本組合が負担した費用を計上していますが、工事費が令和元年度と比較し減少したため、減少しています。
人件費	千円	4,702	4,679	4,672	4,684	
合計	千円	65,942	152,789	112,870	110,534	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標 5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
入館者数(万人)	目標		46	46	48		天候、景気、感染症
	実績	46	45	15			
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
来館者の満足度(%)	目標		80	80	85	来館者へのアンケート実施結果	
	実績		85	0			
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	感染症拡大防止対策により、5月24日までの臨時休館をはじめ、第2波、3波の影響があり、目標は達成することはできませんでした。また、感染症拡大防止策に伴い、来館者へのアンケートは実施できなかったため、来館者の満足度は算出できませんでした。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 海事に関する知識の普及は、本組合として必要と考えます。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ また、広く一般の利用を対象としており、ニーズに応えています。					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 入館者数は、目標値を大きく下回りましたが、コロナ禍においても海事に関する展示を通じた、海への親しみと知識の普及に貢献しています。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 海洋博物館の展示を向上するため日本財団の「海のミュージアムサポート事業」を活用しています。施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性	成果	コスト	判断理由
		拡大	拡大	
継続		海事に関する知識の普及については継続して実施する必要があります。成果は、感染症の影響を受ける中で、前年度実績から大幅に減少した入館者数を回復する必要があること、また、webの活用や、経費の削減等に取り組み、より効率的に海事に関する知識の普及を図る必要があることから「拡大」とします。コストは、経費削減を行います。感染症の影響により利用料金収入が減少する見込みであり、令和2年度に引き続き、指定管理料の支出が必		
課題		3年度以降の取組		
来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要があります。また、経費削減に取り組むとともに、感染症の影響により、来館することができない人に対しても、海事に関する知識の普及に取り組む必要があります。		感染症の拡大防止対策を引き続き実施します。また、引き続き、webを活用し、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力を、広く発信するとともに、経費の削減についても取り組みます。感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出します。		

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			元年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 関連事業担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト			
事務事業名	名古屋港湾会館の管理・運営			継続	維持	維持	連絡先 052-654-7836	
目的	対象(誰・何を)	港湾関係者、船員その他海事関係者を始めとした利用者					事業 期間	平成18年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	文化及び教養の向上と福祉の増進を図ります。						
概要	名古屋港湾会館の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供します。					根拠 法令等	指定管理者による公 の施設の管理に関す る条例 名古屋港湾会館条 例	
令和2年度の実施予 定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の影響を考慮し、会議室の提供を行 い、施設を良好に管理しながら、更なる利用促進に努めていきます。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
						関連 シート		

2 DO(実施)

令和2年度に実施した 内容・結果	感染症拡大防止対策として4/17～5/18まで臨時休館し、再開後は、消毒用アルコールを設置する等、感染症拡大防止策 を実施しました。 感染症の拡大防止を理由とするキャンセルに伴う利用料金の減収分等について、指定管理料を増額しました。 会議室の利用促進に努め、1570件の利用がありました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	31,609	66,042	72,212	56,621	令和元年度より、施設整備費を本件費用に計上しています。 令和2年度は、感染症対策費等を負担したため、事業費が増 加しております。
人件費	千円	3,780	3,761	3,756	3,766	
合計	千円	35,389	69,803	75,968	60,387	

3 CHECK(検証)

13.2

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
会議室の利用率(%)	目標	33	33	33	35	3	過去の実績等を踏まえた目標利用率 (年間利用回数÷(年間営業日数×室数× 3)) ※ 3は午前・午後・夜間の使用区分)	感染症
	実績	33	32	21				
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(2年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	会議室の利用率は、既存利用者への再利用の促進など、稼働率向上に努めましたが、感染症を理由とするキャンセルや自 粛の影響により、目標を下回りました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港湾関係者、船員その他海事関係者を始めとした利用者に文化及び教養の向上と福祉の増進を図ることは重要であ ると考えます。また、一般の利用者にも開放しており、ニーズに応えています。					
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社 会環境にあっているか?	○						
効率性	事務事業の目的は、施策達成に貢献する か?	○	会議室の利用率は、感染症の影響により目標を下回りましたが、文化及び教養の向上と福祉の増進に貢献していま す。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△						
	最小のコストとなっているか?	○	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由	
	成果	コスト		
継続	拡大	拡大	港湾関係者を始めとした利用者に会議室の提供を継続する必要があります。 成果は、経費削減に取り組むとともに、感染症の影響を受ける中で、前 年度実績から大幅に減少した利用率を回復する必要があることから、 「拡大」とします。 コストは、感染症の拡大防止を理由とするキャンセルに伴い利用料金収 入が減少する見込みであり、令和2年度に引き続き、指定管理料の増額 が必要であるため「拡大」とします。	
	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強 化することによって、成果をあげる必要 がある。			
課題			3年度以降の取組	
安全・安心に利用できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続し ていく必要があります。 また、経費削減に取り組むとともに、コロナ禍においての利用率の向上に 向けた周知や、営業等に取り組む必要があります。			感染症の拡大防止対策を引き続き実施します。 また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努めま す。 感染症の拡大防止を理由とするキャンセルに伴う減収分等については、 指定管理料を増額します。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 関連事業担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	臨港緑地の管理・運営		継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7836
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業 期間	平成18年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	にぎわいや憩いの空間を提供します。					
概要	臨港緑地の良好な維持管理と高質な利用者サービスを提供します。					根拠 法令等	指定管理者による公 の施設の管理に関する 条例 名古屋港管理組合 臨港緑地条例
令和2年度の実施予 定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)拡大防止対策を講じつつ、臨港緑地の 提供及び施設の良好な管理を行いながら、コロナ禍での安全な利用に努めていきます。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した 内容・結果	感染症拡大防止対策として4月から5月の一定期間、施設を休止しました。再開後は屋内施設に消毒用アルコールを設置する等の感染症 防止対策を実施し、臨港緑地の提供及び施設の良好な管理を行いながら、安全に利用できるように努めました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	333,649	510,669	349,752	398,023	令和2年度は、感染症による減収のため、事業の執行を一部 停止しました。
人件費	千円	28,671	28,531	28,491	28,564	
合計	千円	362,320	539,200	378,243	426,588	

3 CHECK(検証)

成果目標名	30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
利用者数(万人) (単年度管理型)	目標	41.7	56.2	56.8	58	過去の実績等を踏まえた目標利用者数 全緑地(野球場6面、テニスコート8面、運動広 場5面、サイクリングロード、マリンパーク(魚釣 り施設含む)、ゴルフ場)の利用者数の合計	天候
	実績	52.0	53	58			
利用者の満足度(%) (単年度管理型)	目標		76	77	80	利用者へのアンケート実施結果	
	実績		83	78			
事業進捗状況(2年度)			<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値をやり下回る		<input type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	利用者数は、感染症により人との密になりにくい屋外施設に人が流れたことで目標値を上回りました。 利用者の満足度においては、ほぼ目標値どおりの評価を得ました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社 会環境にあっているか?	<input type="checkbox"/>	港湾の緑地を整備し運営することは、港湾管理者の責務であり、本組合の関与が必要と考えます。また、 運動施設・緑地等の管理・運営により、港のにぎわいと憩いの空間の創出につなげていきます。					
	<input type="checkbox"/>						
有効性 事務事業の目的は、施策達成に貢献する か? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="checkbox"/>	感染症により人との密になりにくい屋外施設に人が流れたことで利用者数は目標を上回り、施策達成に貢 献しています。					
	<input type="checkbox"/>						
効率性 最小のコストとなっているか?	<input type="checkbox"/>	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最小のコストで最大の効果が得られるよう努めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	港湾の緑地の整備運営は、港湾管理者の責務であるため。また、運動施設・緑 地等の管理・運営により、港の賑わいと憩いの空間の創出に繋げるため。また、 目標値は達成しているため成果・コストは「維持」とします。
課題		3年度以降の取組	
効率的な施設の維持管理に努めるとともに、安心して利用してもらえるよ う、感染症の拡大防止対策を継続する必要があります。		施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供及び感染症の拡 大防止対策に努めます。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト				
事務事業名	中川運河緑地(堀止地区)整備事業		延伸	維持	維持	連絡先	052-654-7921	
目的	対象(誰・何を)	中川運河(堀止地区)					連携課	計画担当、環境担当、工事課、港湾工事事務所
	意図(どういう状態にしたいか)	人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図ります。						
概要	整備場所:名古屋市中区運河町、中村区運河町 内容・規模:「親しまれるみなと」を実現するため、市街地の貴重な水辺空間に緑地を整備します。用地を造成し、水辺周辺一帯を緑地(1.1ha)として整備(用地・護岸、緑地)します。 全体事業費:12億円(平成23年度より11億円から変更) 事業手法:防災・安全交付金事業						根拠法令等	名古屋港湾湾計画 中川運河再開発基本計画 中川運河再生計画
令和2年度の実施予定	水辺一体の緑地整備として、通路舗装、整地、照明等を行います。						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	水辺一体の緑地整備として、通路舗装、整地、照明等を行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	20,000	13,113	26,712	59,825	
人件費	千円	4,333	1,651	1,283	7,267	
合計	千円	24,333	14,764	27,995	67,092	

3 CHECK(検証)

成果目標名	30年度	元年度	2年度	最終目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
整備面積(ha)	目標		0.84	0.86	1.1	整備面積は、事業費による換算数量です。	周辺地区再開発
	実績	0.83	0.84	0.86			
(進行管理型)	事業進捗状況(2年度)			順調 やや遅れ・遅れ			
	目標						
	実績						
事業進捗状況(2年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	ささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と一体的な整備を進めており、堀止西側の緑地については、平成29年4月1日に供用を開始し、予定通り順調に進捗しています。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して地元のニーズを取り込みながら整備を進めています。				
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>					
効率性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	平成29年4月1日から緑地の一部を供用開始しており、人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し地域環境の向上を図ることは、上位施策である「うるおいと魅力ある港湾空間の形成」に貢献すると考えております。				
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	本事業の進捗状況としては、順調に進んでいます。				
	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	堀止に隣接するささしまライブ24地区の土地区画整理事業等と連携して効率的に整備を進め、コスト削減に努めています。				

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	人びとが港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			3年度以降の取組
名古屋市関連事業と調整を図りながら一体的な緑地整備を進める必要があります。			名古屋市関連事業と連携して、引き続き、親水緑地の整備を進めていきます。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト				
事務事業名	中川運河水質改善事業		継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 環境担当、工事課	
目的	対象(誰・何を)	中川運河					事業 期間	平成26～令和4年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散歩できる水環境の創出を図ります。						
概要	整備場所: 名古屋市 中川区 運河町、中川区 西日置 内容・規模: 中川運河の水循環を促進するため、松重ポンプ所の改修、露橋水処理センターからの高度処理水の活用(吐出管設置)、並びに堀止における深場の埋戻し(覆砂)を実施します。 全体事業費: 18.1億円 事業手法: 社会資本整備総合交付金事業					根拠 法令等		
令和2年度の実施予定	松重ポンプ所の改修(排水管の設置)を行います。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
						関連 シート		

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	松重ポンプ所の改修(排水管の設置)を行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	32,182	12,358	97,829	142,369	
人件費	千円	4,333	1,651	1,283	7,267	
合計	千円	36,515	14,009	99,112	149,636	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	最終目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
事業の進捗状況 (全7工程) (進行管理型)	目標	4	4	4	7	以下 の項目のうち完了した工程数を合計します。 【①調査 ②事業採択 ③設計(松重ポンプ所改修) ④吐出管設置(高度処理水活用) ⑤設計(堀止深場埋戻し(覆砂)) ⑥堀止深場埋戻し(覆砂)整備 ⑦松重ポンプ所改修】			
	実績	4	4	4					
	事業進捗状況(2年度)							順調・ やや遅れ・遅れ	
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標				7				
	実績								
	事業進捗状況(2年度)							順調・ やや遅れ・遅れ	
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り順調に事業が進捗しています。								
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	港湾管理者として、中川運河再生計画に基づき松重ポンプ所の改修等を行い、水質改善に取り組んでいく必要があります。						
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	中川運河の良好な水環境の創出は、上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献すると考えています。						
効率性	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	本事業の進捗状況としては、順調に進んでいます。						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	関係行政機関、学識者を交えた委員会により経済性を踏まえて策定した施策であり、今後も事業実施に向けコスト削減に努めています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
延伸		維持	維持	現場不一致等により工程の見直しが必要となり、事業延伸が必要となったため。 ※今回の評価にて事業完了年度を延伸(令和4年度→令和5年度)
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題				3年度以降の取組
中川運河水質改善施策を推進するためには、関係者とのさまざまな調整が必要です。				関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていきます。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者 建設部 金城・中川・南5区担当課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト		
事務事業名	海上交通ネットワークの形成		継続	維持	維持	連絡先 052-654-7978 連携課 工事課、事業推進課
目的	対象(誰・何を)	金城ふ頭、ガーデンふ頭、中川運河、堀川				事業期間 平成30年度～令和4年度
	意図(どういふ状態にしたいか)	港内の各地区間や港と背後地域を結ぶ、新たな交流の道筋となる“水の交流軸”の形成を図ります。				
概要	中川運河、堀川を利用し、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を図ります。					根拠法令等
令和2年度の実施予定	海上交通ネットワークの形成を図るため、金城ふ頭の小型栈橋の設計を行います。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していきます。					実施義務 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	海上交通ネットワークの形成をすすめるため、利便性の向上に向け金城ふ頭小型栈橋の実施設計を行いました。なお、中川運河における水上交通の運航は、感染症拡大防止のため、令和2年2月29日から6月5日まで運休しました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	19,138	33,118	34,056	28,771	
人件費	千円	-	10,091	10,077	10,084	
合計	千円	19,138	43,209	44,133	35,493	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	最終目標	4	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
金城ふ頭小型栈橋整備の進捗状況(全4工程) (進行管理型)	目標		2	3		4	以下の項目のうち完了した工程数を合計します。 【①基本計画 ②基本設計 ③実施設計 ④整備】	
	実績	1	2	3				
	事業進捗状況(2年度)			順調	やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	小型栈橋の実施設計を予定通りに行いました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？ 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？	○	うるおいと魅力ある港湾空間の形成のためには、海上交通ネットワークの形成を進める必要があります。						
有効性 事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？ 期待どおりの成果が得られているか？	○	金城ふ頭の小型栈橋の整備により、海上交通ネットワークの形成に向けて、利便性を向上させることができます。						
効率性 最小のコストとなっているか？	○	コストが最小になるよう事業を進めています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性			判断理由
	継続	成果	コスト	
		維持	維持	利便性の向上を図りながら海上交通ネットワークの形成をすすめるため、うるおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。
課題			3年度以降の取組	
海上交通ネットワークの形成に際しては、利便性を向上していく必要があります。また、水上交通の誘導をすすめる名古屋市と連携・調整していく必要があります。		海上交通ネットワークの形成をすすめるため、利便性の向上に向け金城ふ頭小型栈橋の整備を令和3年度から着手します。また、水上交通の誘導をすすめる名古屋市と連携・調整していきます。		

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			元年度事業・施策評価結果		責任者 港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト	
事務事業名	クルーズ船誘致の推進			継続	縮小	縮小
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船			事業 期間	平成6年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	名古屋港へのクルーズ船の寄港増加に向けた取組を進め、港の魅力や親しみの向上を図ります。				
概要	名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議で策定した「名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画」に基づき、クルーズ需要喚起に向けた情報発信や魅力発信に取り組みます。				根拠 法令等	
令和2年度の実施予定	ホームページやフェイスブック等のSNS等を活用し、クルーズ需要喚起に向け、クルーズ船寄港情報等を発信するとともに、クルーズ船に対する信頼や安心を回復するため、クルーズ船受入時における感染拡大予防対策など、安全・安心の取組を県民・市民に対し情報発信します。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	ホームページで、国内クルーズ船受入再開に向け本組合が策定した「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」、国等によるガイドライン、船会社の新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)対策や取組等の情報を発信しました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	79,518	843	93	26,818	令和元年度から事業費の考え方を見直したことで、令和2年度について、感染症の影響により国内外におけるセールス活動等が実施できなかったことから事業費が減少しています。
人件費	千円	17,977	17,889	17,864	17,910	
合計	千円	97,495	18,732	17,957	44,728	

3 CHECK(検証)

成果目標名	30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
情報発信数(件)	目標		10	30	40	一般市民向けにSNS等を活用したクルーズ船情報発信数	感染症
	実績	21	10	15			
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
	目標						
	実績						
	事業進捗状況(2年度)						
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	感染症の影響により国際クルーズ船が再開されなかったことにより情報発信数は目標に及びませんでした。令和2年11月の国内クルーズ船受入再開時には適切なタイミングで本組合、国、船社の安全・安心の取組を広く発信できました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？					
	○	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか？					
有効性	○	クルーズ船への親しみを深め、関心を高めることが施策目標の達成には必須の条件と考えます。そのためにも、クルーズ船に対する信頼や安心を回復する必要があります。コロナ禍においても7隻の国内クルーズ船を受け入れることができ、うるおいと魅力のある港湾空間の形成に貢献していると考えます。					
	△	期待どおりの成果が得られているか？					
効率性	○	実施にあたっては直接的な支出を抑えています。					
	○	最小のコストとなっているか？					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	感染症の影響により、令和3年度の外国船社等への海外ポートセールスの実施は困難であるが、港ににぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を進める必要があるため。 なお、成果については、引き続き目標達成を目指すことから「維持」とし、コストも「維持」とします。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			3年度以降の取組
外航クルーズ船の運航再開にあたり国等のガイドラインに基づき本組合の受入マニュアルを策定するとともに、外航クルーズ船に係る本組合、国、船社の安全・安心の取組を広く発信する必要があります。			
国内クルーズ船について、引き続き本組合、国、船社の安全・安心の取組を広く県民・市民に対し情報発信していくとともに、外航クルーズ船についても同様の対応を行っています。また、船社に対してはこの地域の観光地の情報提供を行い名古屋港へのクルーズ船誘致を行うとともに、感染症の状況を注視しつつクルーズ需要喚起に向けた情報発信にも取り組んでいきます。 なお、成果については、感染症対策をしつつ実績値の向上を目指していきます。			

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり			元年度事業・施策評価結果		責任者 港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成			成果	コスト	
事務事業名	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応			継続	維持	縮小
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船乗客				連絡先 052-654-7835
	意図(どうい う状態にしたいか)	乗客が安心して名古屋港で乗下船したり寄港地観光等に向かうことができるよう、クルーズ船寄港時の受入態勢を整え、適切に対応します。				事業 期間 平成6年度～
概要	クルーズ船運航船社や関係官庁等と協議の上、必要な受入態勢を整えるとともに、港湾運送事業者等、他の利用者の状況も踏まえ、ふ頭全体で安全で円滑な対応ができるよう取り組みます。					根拠 法令等
令和2年度の実施予 定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の状況を注視しつつ、仮設テントやフェンス等を利用して会場設営を行うとともに、警備員の配置、シャトルバスの運行、感染拡大予防措置等、クルーズ船の寄港状況に合わせた受入対応を検討・実施します。					実施義務 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート

2 DO(実施)

令和2年度に実施した 内容・結果	国等より発表された感染症に関する港湾のガイドラインを基に「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」を策定し、国内クルーズ船の本港への寄港は11月に再開されました。クルーズ船入港の際の受入側の検温や発熱等の症状がある乗客を隔離するためのテントの設置など、感染症対策をクルーズ運航船社・関係機関と連携して適切に行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	—	9,062	1,681	5,372	平成30年度の事業費については、事務事業「クルーズ船誘致の推進」に計上しております。令和2年度については国際クルーズ船の運航が再開されておらず、国内クルーズ船のみの受入となったため事業費が減少しています。
人件費	千円	—	17,889	17,864	17,876	
合計	千円	—	26,951	19,545	23,248	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
受入対応に起因する 事故件数(件)	目標		0	0		0	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一と考える。本組合が取組むクルーズ船受入対応に起因する事故件数を0件にすることを目標とします。	
	実績	0	0	0				
(単年度管理型)	事業進捗状況(2年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(2年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	受入れに起因する事故件数は0件で、目標を達成することができました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	クルーズ船の受入対応は港湾管理者である本組合の事業であり、乗客の安全、円滑な受入を適切に実施することが求められます。						
有効性	○	クルーズ船寄港時の受入体制を整え、適切な感染症対策等を実施することで、船社及び乗客に対し安全な港としてPRすることができ、クルーズ船の寄港増加につながるものと考えます。						
効率性	○	1年分の発注をまとめて行うことで1寄港当たりの費用を抑えるよう努めて実施しています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性			判断理由
	成果	コスト		
継続	維持	拡大		クルーズ船の安全・安心な受入を実現するために策定した「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」に基づき、感染症対策の費用が新たに必要となるためコストは「拡大」とし、より安全で円滑な受入れに努めていきます。なお、成果は事故を0件とすることから「維持」とします。
	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、適切な成果の状況を維持する。			
課題				3年度以降の取組
外航クルーズ船は、税関・出入国管理・検疫が必要となり、対人距離確保のため従来よりも広いスペースが必要となるため、運航再開にあたっては国等のガイドラインに基づく適切な会場運営が求められます。また、外航クルーズ船は感染が拡大した場合、停泊が長期化し物流への影響が懸念されます。				国内クルーズ船の受入対応の継続に加え、外航クルーズ船の運航再開に備え、クルーズ船運航船社や関係官庁等と連携し、適切な会場設営、警備員の配置、感染拡大予防措置等について検討・実施します。また、外航クルーズ船は感染が拡大した場合、乗客数が多いことから停泊が長期化し物流への影響も懸念されることから、港湾関係者と連携し対応を検討します。

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成		成果	コスト			
事務事業名	ガーデンふ頭地区屋根付き通路整備事業		延伸	拡大	維持	連絡先 連携課	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	ガーデンふ頭3号岸壁からポートビルまでのクルーズ船旅客の通路				事業 期間	平成30~令和2年度
	意図(どういう 状態にしたいか)	雨天時の通行環境を改善するとともに、車両動線と区画し通行時のクルーズ船旅客の安全性を高めます					
概要	整備場所:ガーデンふ頭 内容・規模:ポートビル周辺の歩行者動線上に屋根付き通路を設置 全体事業費:1.2億円 事業手法:国際クルーズ旅客受入機能高度化事業					根拠 法令等	
令和2年度の実施予定	屋根付き通路を設置します。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した 内容・結果	屋根付き通路を設置しました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	10,500	44,605	59,395	114,500	
人件費	千円	-	1,651	733	2,384	
合計	千円	10,500	46,256	60,128	116,884	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	最終目標	2	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%)	目標	/	43	100	/	100	事業進捗率は、全体事業費を100とした事業費の割合です。	
	実績	8	43	100	/			
(進行管理型)	事業進捗状況(2年度)			順調	やや遅れ・遅れ			
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(2年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り順調に事業が進捗し、令和2年度に完了しました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 名古屋港におけるクルーズ船の寄港地として雨天時の通行環境を改善するとともに、車両動線と区画し通行時のクルーズ船旅客の安全性を高める必要があります。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ クルーズ船の旅客に対する利便性が向上することで「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に寄与すると考えます。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ コストが最小となるよう精査して事業を進めています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
完了	/	/	屋根付き通路の設置が完了し、雨天時の通行環境を改善するとともに、車両動線と区画し通行時のクルーズ船旅客の安全性を高めました。
課題			3年度以降の取組
/			/